

# 防衛省・防衛装備庁(技術系)



## 防衛省総合職技術系 行政職(施設系)採用

[施設系]  
防衛施設に関する政策の企画・立案

自衛隊の活動基盤である駐屯地・港湾・飛行場等の防衛施設は、国の安全を守る「岩」です。

防衛省では、土木・建築・機械・電気・通信などの理系出身の職員が、**技術的知見**を活かして主に**防衛施設整備**に係る各種政策の企画・立案等を行うことを任務としています。



## 防衛省総合職技術系 行政職(装備系)採用

[装備系]  
防衛装備品に関する政策の企画・立案

※ 総合職技術系行政職(装備系)は国家公務員採用総合職試験の「工学」区分から幅広く様々な学科・専攻から採用を行っています。

我が国の防衛体制を構築するため、航空機や艦船、戦車などの防衛装備品が必要ですが、こうした防衛装備品の導入には、多くの技術的な知見が求められます。

防衛装備品の導入に関する大規模プロジェクトの管理や国際装備協力、防衛産業の維持・強化など、防衛装備品に関する政策は近年さらに重要になってきています。

### 工学的な知見も活かしつつ、広い視野で装備政策に取り組む

例えば、開発段階では、全体最適を考慮した機能・性能とコストのトレードオフ、量産・維持整備段階では、IE(インダストリアルエンジニアリング)等の工学的手法を用いて生産プロセスを分析し、作業の効率化を図るなど防衛産業の筋肉質化、防衛生産・技術基盤の維持・強化にも寄与する施策に取り組んでいます。

また国際装備協力という新たな分野では、相手国との調整だけではなく、技術的な視点から装備品の生産プロセス、サプライチェーンなどについて、防衛生産・技術基盤に与える影響等について検討を行っています。

## 総合職技術系行政職紹介(施設系)

日本の平和は、全国に約25万人いる自衛官と、国民の活動、防衛産業、諸外国との関係など広くこの巨大な組織を運用するための仕組みだけでは実現することはできません。自衛官が活動する場である駐屯地・基地等の「**防衛施設**」や、戦車・護衛艦・戦闘機・ミサイル等の「**防衛装備品**」があってこそ実現します。防衛技官は、いかなる事態にも対応できるよう、これら物的基盤を安定的に確保するための政策を企画・立案しています。

我々の業務は枠組みをつくることにとどまらず、実際に防衛施設を建設し、装備品を調達するという「現場」があります。防衛行政というと、閉鎖的な世界という印象を持つかもしれませんが、実際は全く違います。我々の立案し、実行する政策は、

影響が及びます。そのため、技術力はもちろん様々な知識とバランス感覚を培いながら日々の業務に取り組む必要があります。

防衛技官は、防衛行政の最前線から自らの技術力を駆使して現場経験を積み、その経験を活かして本省での政策決定に関わって新しい道を切り開いていかなければなりません。安全保障環境が変化し、自衛隊の役割が拡大している中、**物的基盤の整備**という観点からどれだけ国防に貢献しているか。その活躍の幅は、ひとえに我々防衛技官の努力次第です。

# 防衛省

私たちの代わりはいない



防衛省の説明会情報は  
こちらから！



防衛装備庁

研究職採用案内

<http://www.mod.go.jp>

/atla/saiyou/index.html